

第6学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

【日時】令和7年7月24日（木）10:20～11:05 【場所】メディアセンター 【指導者】阿嘉 明彦

本授業の参観の視点

中間発表を通して、まとめ方や発表の仕方、内容の共通点や相違点を見付け、国語科の文章構成、算数科のグラフの特徴、社会の選択・判断の基準、理科の仮説の立て方等の学びを活用し、探究している児童の姿をご覧ください。

1 単元名 鯨っ子学習

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、「鯨っ子学習」という、附属小学校総合部が作成したカリキュラムに沿って行う。「鯨っ子学習」とは、児童一人一人が実生活や各教科等の学びの中から課題を見だし、仮説を立てて検証し、分かったことをまとめる約15時間ひとまとまりの単元構成を指す。加えて本単元では下学年に伝える時間を2時間設け、17時間単元とする。課題を設定する際や最終段階でまとめる際には、探究的な学習を行っている佐賀大学の学生の視点からアドバイスを受けることで、探究的な学習を継続できるようになることと、探究的な学習における成果と課題を自覚できるようになることが望まれる。また、附属中学校も「課題研究メソッド」に基づいて、個人探究を行っている。鯨っ子学習を経験することで来年度の中学校入学に向けてスムーズに接続できることも期待できるであろう。

(2) 児童について

本学級の児童は、一昨年度より「鯨っ子学習」に取り組んできた経験がある。探究内容のまとめ方については、新聞、レポート、プレゼンテーション等の形式から選択して行っている。しかし、事前調査の結果、本やインターネットで調べた内容をまとめるだけで、実験や観察、調査といった経験がない児童が37%（13名）もいた。これらの児童は、各教科等で働かせた見方・考え方や身に付けた資質・能力を十分に活用できていない可能性も考えられる。各教科等の学びを総合的に働かせ、汎用的な資質・能力を身に付けるためにも、試行錯誤しながら探究的な学びを経験する必要がある。

(3) 指導について

単元の導入においては、理科の「ものの燃え方（6年）」を例に挙げ、身近にある不思議な現象を解き明かす学習過程（観察・仮説・実験・考察）の流れを確認することから始める。この学習過程に沿って「鯨っ子学習」を進めることを確認し、身近な不思議を「課題ストック（日頃の素朴な問いを書き留めておくノート）」に集めていくことを伝える。また、単元を進める中で役に立ちそうな各教科等の学びを学級で集約し、「ラーニングマップ」として掲示し、以降の活動の中で参考にできるようにする。「課題の設定」では、各自が集めた「課題ストック」を集約し、興味があるもの、調べ方に見通しがもてるものという過程で焦点化させたい。また継続的に探究できるように佐賀大学の大学生からアドバイスももらう。「情報の収集」では、児童の課題によって家庭に協力を求める場合も考えられるので、学級通信にて「鯨っ子学習」の目的や進め方を発信し、協力を仰ぐ。「整理・分析」では、実験、観察を行った児童には理科で学んだ結論を導出する視点、調査を行った児童には社会科で学んだ追究の視点を活用することができるようにする等、「情報の収集」の段階における児童の調べ方に応じた手立てをうつ。「まとめ・表現」では、国語科の文章校正、算数科における図表やグラフの特徴等、児童が活用している各教科等の学びを取り上げ、全体に紹介し広げていく。各教科等における学びを活用している児童を取り上げ価値付けたり全体に紹介したりすることで、児童が各教科の資質・能力を繰り返し何度となく活用・発揮できるようにしたい。また、探究活動の間にも佐賀大学の学生との交流学习の時間を仕組み、個々の成果物を発表し、アドバイスをもらう機会を設定する。その後、推敲・校正を行った後、小学5年生に成果物を発表する。自分たちが取り組んできた「鯨っ子学習」に対し、大学生から評価を受けたり、調べ方やまとめ方を後輩に伝えたりする時間は、新たな視点に気付いたり、達成感を得たりすることに有効であろう。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージC「他教科等」

どのような書き方をしたら相手にうまく伝わるだろう。文章構成図を見てみよう。



相手にうまく伝わる文章を選択している。

国語科【思考力、判断力、表現力等】

→国語科で学んだ既習教材の文章構成図を用いることで、文章構成を比較しながら選択できるようにする。

どのような図や表を使ったら、これまでの結果をうまくまとめることができるだろうか。



自身が実験・観察した結果をまとめるための図、表を選択し、整理している。

算数科【思考力、判断力、表現力等】

→算数科で学んだ図表・グラフをまとめたラーニングマップへの注目を促すことで、図表・グラフの特徴を比較しながら選択できるようにする。

わたしはこの部分を強く主張したいから、赤で囲んだり、違う色を使ってみよう。



自身の発表のイメージに合った色彩を選択している。

図画工作科【思考力、判断力、表現力等】

→発表のイメージに適した色彩を意識することができるようにし、色の選択の意図を問う。

ステージA・B「同単元・領域、同教科」

たくさんの情報があるんだけど、課題を解決するために必要な情報はどれかな。



多様な情報からより課題を解決するために適切かつ効果的、効率的なものを選択している。

総合的な学習の時間【思考力、判断力、表現力等】

→インターネットの情報のみではなく、書籍、インタビュー、調査・観察など複数のものから収集したものから吟味することの必要性を伝える。

どのような方法で情報の整理や分析をしたいのかな。



事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて試行錯誤している。

総合的な学習の時間【思考力、判断力、表現力等】

→ラーニングマップを見ることで、数値化された情報であれば、統計的なグラフ（折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ等）、言語化された情報であれば、カードにして整理したり、時間軸に並び替えたり、マップなどの空間軸で整理する等、情報に応じて整理する方法が異なることに着目することができるようになる。
→考えるための技法（小学校学習指導要領 総合的な学習の時間）を最初は教師が児童の習熟度に応じて示すことで、児童自身が試行錯誤しながらその技法を活用できるようにする。

単元のゴール：
探究的な見方・
考え方を働かせ
て課題を解決し
よう。

ステージD「実生活・実社会」

だいぶ解決できるようになってきたぞ。これは実生活で活かそうだ。



探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解している。

【学びに向かう力、人間性等】

振り返りの時間をとることで、この時間でどう成長したかを自覚できるようにする。

〇〇君の方法は僕の課題解決のために活かそうだ。



自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探求に取り組もうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

意見交流の場を設け、他者と協働して主体的に課題を解決しようとする活動を重視する。

3 単元（題材）の目標と評価規準

(1) 単元の目標

自分が立てた課題について、探究的な学習を通して学び、課題解決やまとめに必要な知識及び技能を身に付け、それを活用することができるようになる。

(2) 評価規準

ア 課題解決やまとめに必要な知識及び技能を身に付けている。 【知識・技能】

イ 日頃の問いから課題を立て、その解決に向けて情報を集め、整理分析し、まとめ・表現している。

【思考・判断・表現】

ウ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、よりよい成果物にまとめようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全 17 時間 本時 7 / 17 時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
一 課題 の 設 定	1 2	○「鯨っ子学習」の進め方を理科の学習過程（観察・仮説・実験・考察）と結び付け、見通しをもつ。 ○各教科等での学びを思い出し、「ラーニングマップ」に整理する。	・並行して学習している理科の「ものの燃え方」を取り上げ、どのような進め方で学んでいるかを問う。 ・班ごとに白紙の「ラーニングマップ」を配付し、これまでの学習やそこから得た学びを、話し合いながら思い出せるようにする。	◆探究的な学習を進める上で必要な活動を考え、単元に見通しをもっている。【主】
	10 日間ほど期間を空け、「課題ストック」に日頃の問いを集める時間を確保する。			
	3	○各自が集めてきた課題を交流し、自分が探究する課題を決める。 ○課題に対する仮説を立てる。	・課題を絞り込む際、単元を通して粘り強く計画的に取り組めるように、興味があるか、見通しがもてるかといった視点を与える。 ・大学生からアドバイスをもらうことで、より継続的に取り組むことができる課題を設定することができるようにする。	◆興味をもち、調べ方に見通しをもてる課題を立てている。 【思・判・表】
二 情報 の 収 集	4 5 6 7 本 時 8	○各自が、探究する課題に基づいて調べ活動に取り組む。 ○調べ活動を通して分かったことをメモする。 ○中間報告を行う。 ○必要に応じて、休み時間や家庭でも調べ活動に取り組む。	・実験や観察を行う児童には、理科の比較対照実験や観察の視点を想起できるような言葉かけを行う。 ・「考える技法」の例を示すことで、活用することができるようにする。 ・「ラーニングマップ」を提示したり、そこに情報を付け加えたりしながら活用することで、各教科等での学びを生かせるようにする。	◆仮説の検証に向けて、必要な調べ活動を行っている。 【思・判・表】 ◆自分の課題に沿った情報を集め、ワークシートやタブレット端末に蓄積している。 【知・技】
	9 10 11	○調べ活動を通して得た情報を、比較したり分類したり、関連付けたりする中で考察する。 ○考察結果の信頼性を高めるために、必要なら本やインターネットで追加の調べ活動を行う。 ○考察した結果を基に結論を導出する。	・「ラーニングマップ」を提示したり、情報を付け加えたりしながら活用することで、各教科等での学びを生かすことができるようにする。 ・「考えるための技法」の例を示すことで、活用することができるようにする。 ・国語科の『情報と情報をつなげて伝える』の学習と関連付けることで、考察した情報を具体化したり、一般化したり、定義付けたりし、結論導出の手助けになるようにする。	◆自分の課題に対し、根拠をもって論理的に結論を導出している。 【思・判・表】
	12 13 14 15 16 17	○相手意識をもち、伝えたい事柄に合わせて文章構成や資料を考える。 ○完成した成果物を児童同士で交流し、推敲する。 ○大学生と交流し、アドバイスを受ける。受けたアドバイスを基に、推敲・校正を行う。 ○小学5年生に成果物を伝え、本単元の学びを振り返る。その際、探究を踏まえて、各教科等の学びがどのように役立ったかという視点をもつ。	・児童自身が整理・分析した情報のまとめ方に見通しがもてるように、国語科で学んだ文章構成、算数科で学んだ図表・グラフの特徴、図画工作科で学んだ色の使い方の資料を提示する。 ・早く表現が終わった児童には、主体的・対話的に推敲を行えるように、友達同士で成果物にレビュー（批評）を行う場を設ける。 ・大学生には、探究活動の視点から、児童の成果物に対してアドバイスをするように打ち合わせておく。	◆相手意識をもち、伝えたいことに合わせた文章構成で表現している。 【思・判・表】 ◆自分の課題を解決するための知識を得ている。 【知・技】 ◆最後までよりよい成果物にするために、友達と交流しながら粘り強く取り組もうとしている。 【主】

5 本時の指導（7／17）

(1) 指導目標

中間報告を通して、これからの自身の発表に必要な情報や整理分析の仕方を再考し、成果物に見通しをもてるようにする。

(2) 評価規準

イ 中間報告を通して、これからの自身の発表に必要な情報や整理分析の仕方を再考している。

【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（ <u> </u> ）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時までの学習活動を振り返り、本時の学習に見通しをもつ。（5分） ・自分の仮説を検証する際に違う方法を思いついた。 ・インターネットで調べたけど、詳しいことが分らなかった。 ・私は実験がなかなかうまくいかず苦労した。だから、その苦労を伝えたい。	1-(1) 本時の学習に見通しをもつことができるように、実験の過程を重視している児童や、複数の事例を調べている児童を例に挙げ、伝えたいものはそれぞれ異なっていることを確認する。 1-(2) <u>各教科等の学びを振り返ることができるように、既習の学びを整理した掲示物（課題設定の視点、ラーニングマップ、考えるための技法）を貼っておく。（AB）</u>
2 代表3人の中間報告を聞く。（15分） ・発表内容 例① 美味しいホットケーキの作り方について ・発表内容 例② バスケットボールの上達の方法について ・発表内容 例③ 雨水と水のちがいについて	2-(1) <u>中間報告を聞いて、自分が行っている整理・分析の方法と比較できるように、文章構成や図、グラフ、色彩、考えるための技法等、聞く際に必要な視点を明確にする。（AB）</u> 2-(2) 中間報告を聞いて、自分の発表に生かすことができるように、参考になったものはメモを取るように促す。
自分の発表に合うものを選択し、改善しよう	
3 中間報告を聞いて、自分の課題の整理・分析の方法が適切かどうか再考し改善する。（20分） (1) 自分の課題の整理・分析の方法を改善する。 ・調べてきたことを整理して伝えたいから、事例を並列して紹介する構成にしよう。 ・実験を行った意図や方法、その結果の分析という過程を伝えたいから、「観察・仮説・実験・考察」という構成にしよう。 ・アンケート結果から割合を伝えるために、円グラフを使った方がいいのではないかと。 ・分析する中で見えて来た発見の驚きを伝えたい。どの方法が適切だろうか。	3-(1) <u>「ラーニングマップ」に注目したり、新しい情報を付け加えたりしながら活用するように促すことで、各教科等での学びを生かすことができるようにする。（ABC）</u> ◆ 自分の発表に合った文章構成、図表・グラフを選択しているか。（ワークシート）【思・判・表】 B 自分が伝えたいことに合う方法を選択している。 C→ 結果を紹介したいのか、これまで調べた過程を紹介したいのかを確認し、それが伝わる方法はどれか問う。
(2) 友達と交流し、批評し合う。 ・この実験結果であれば、折れ線グラフを使っている方が変化が分かりやすいね。 ・複数の調査をしているから、それらの結果から共通点を見付けてまとめたらよさそう。 ・〇〇さんのように、敢えてうまくいかなかった実験の過程も載せた方が、分かりやすそうだ。 ・本当に伝えたいところを分類して色分けしているから見やすいね。 ・分類したもので色分けする方が見やすいね。 ・もう一度友達にアドバイスをもらおう。友達のアドバイスから、やるべきことを考えてみよう。	3-(2) 選択した理由や意図について友達と交流することができるように、選択肢を設けたワークシートを用意し、児童の判断を可視化する。 3-(3) <u>児童のつぶやきやワークシートの中から、各教科等の学びを生かしたのもや使用している考えるための技法を取り上げ板書し視覚化することで、他の児童も参考にすることができるようにする。（C）</u>
4 次時の活動に見通しをもつ。（5分） ・友達の考えを聞いてもう少し情報を集めたいので、夏休み家で実験をしてみよう。	4 夏休み中にも情報を集めたり、整理・分析し直したりするように伝えることで、休み明けの意識を高めることができるようにする。